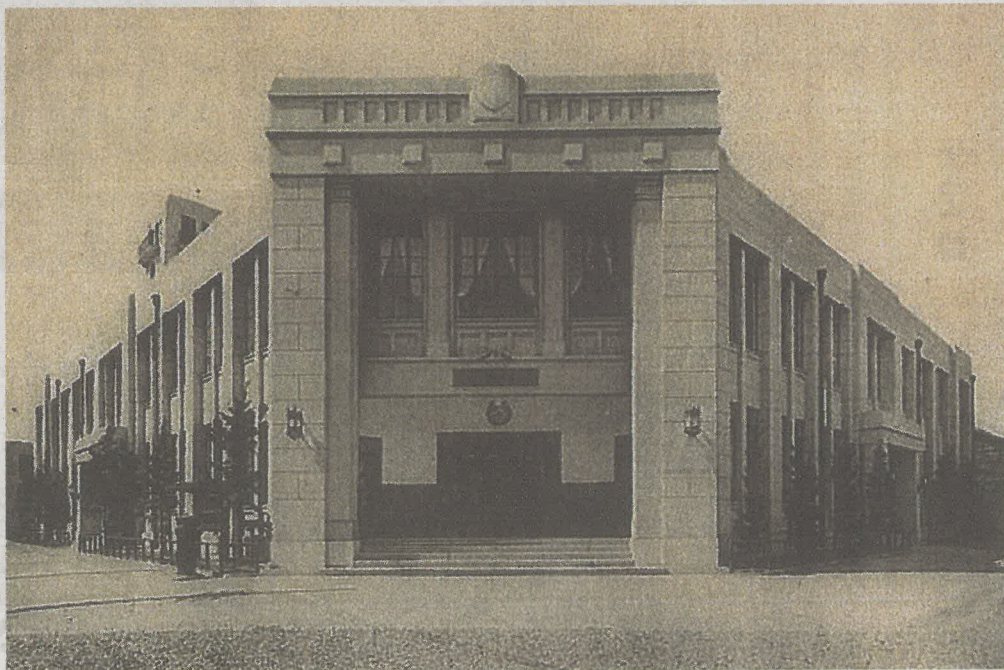


榊原建設

一宮市役所の庁舎新築請け負う

榊原建設(本社一宮市北園通2の10、榊原譲社長、電話0586・73・6831)は、1921年創業の老舗建設会社。59年に東海地方に伊勢湾台風が上陸した際には、復旧工事に奔走するなど、地域に大きな貢献を果たした。これまで一宮市役所の庁舎をはじめ、警察署、学校、工場、倉庫など地域の重要なインフラ工事を幅広く手掛けている。(尾張・倉科信吾)

榊原譲社長の祖父・信太郎がえられている。半田町(現半田市中心部)で、29年には土井氏の個人名義で土井新太郎とともに建設工事請負業を立ち上げたのが同社のルーツになる。当時の半田町には、明治建築の代表的なカブトビル工場(現半田赤レンガ建物)があり、信太郎も刺激を受け、建設業への夢を抱いていたと伝



1930年に竣工した一宮市役所の旧庁舎。この工事が、本店を一宮市に移転する契機になった

変幻自在

老舗企業の挑戦

しかし、工事費がかさみ資金繰りに行き詰まった。現場責任者の信太郎は資金・資材の調達に奔走し、土井氏から工事を引き継ぎ30年に竣工させた。一宮市の日野常太郎市長(当時)から感謝状と金一封を渡され、一宮市で、その信頼と実績を得て本店を現本社所在地である一宮市に移転した。

愛知県、厚生省(現厚生労働省)からも公共事業を請け負い、学校や病院の建設を手掛けた。戦中には一宮市も空襲を受



榊原 譲社長

け、戦後の同社は官公庁や学校などの復興工事に取り組んだ。48年には榊原組から榊原建設に改称し、株式会社となった。50年代には「ガチャ万景気」と呼ばれるほど尾州では繊維産業が発展し、繊維工場の新築、倉庫、寄宿舎などの工事受注も増加。繊維関連企業とともに、会社も成長した。

59年の伊勢湾台風では、愛知県から要請を受け、社員総出により飛島村で救助活動や復旧工事を行った。その後、飛島村が

伊勢湾台風で復興に力 信頼と実績を糧に発展

ら感謝状を受け、飛島村の村役場庁舎、学校、村民体育館などの建設工事を受注した。高度成長、2度の石油危機を経て業容を拡大したが、90年代にバブルが崩壊すると、公共事業の新規受注は激減。繊維産業も低迷した。厳しい経営環境の中、95年に3代目社長に譲氏が就任。クリニック、一戸建て住宅、店舗、工場などの建設を地道に営業し受注した。戦後復興期や高度成長期は過ぎたが、築いてきた信頼と実績により、一宮市役所の移転新庁舎の建設も手掛け、2014年に竣工させた。譲氏は「建築は後世に残るやりがいのある仕事。若い人にその魅力を伝えるとともに、効果的な新しい工法や材料を考案し、業界の発展につなげたい」と未来を見据える。



一宮市役所の旧庁舎解体前に、社員らで2014年に撮影